

中学校

仲間とともに生き、自分を見つめる

交流会・障害理解学習を通して、「ともに生きる力」を学ぶ

～一年生「総合的な学習の時間」の取り組み～

附属中学校・教諭 福田 哲也

■総合的な学習の時間のねらい

平成十四年度の一年生の「総合的な学習の時間」では、前期に曾爾高原での野外活動、後期に障害理解学習を設定しました。

今までに障害児学級（五組）との「交流会」をおこなってきましたが、たんに交流を深めるだけでなく、五組の生徒がその障害を乗り越えて力いっぱい生活しているさまに驚き、感動する生徒も多く、「総合的な学習の時間」を構想するにあたり、学年としてこの実践をさらに発展させ、実践を試みようと考えたからです。

■障害をもつ人からお話を聞く こう「北村さんから学ぶ」

昨年十月初旬の「総合的な学習の時間」のオリエンテーションにおいて、ねらいや内容、これからの計画について話し合いました。その後、障害または障害をもつ人に関わりのある方にお話を聞きました。

最初に昨年十月十日に障害児教育に携わってこられた本校元副校長の



北村さんのお話の中で、目隠して、白杖で歩く体験の様子

藤森先生から「なんのために『交流』や『障害理解学習』をするの?」というテーマでお話を聞きました。

障害や障害をもつ子どもたちの話から、人としての生き方まで、幅広くお話しされ、生徒たちも身近なことから、また自分のこととして考えられるように感じました。

次に昨年十月三十一日に障害をもつ方や福祉作業所ではたらいている方（一組平井さん、二組古木さん、三組島田さん、四組北村さん）を各クラスにお招きして、お話を聞きました。視覚と肢体不自由の重複障害をもつ

ておられる北村さんにお話をしてもらったクラスでは、事前に北村さんの生活について、苦労されている点や努力・工夫されている点、わからない点などをグループごとにまとめ、質問する準備をしました。

北村さんのお話は、障害をもつておられることを忘れるくらい楽しいお話と、障害を理解するための疑似体験が満載で、笑い声も絶えませんでした。その中で、重複障害というハンディキャップをもちながらも、前向きにたくましく生活されている北村さんの生き方を通して、生命の尊厳や力いっぱい生きることの大切さを生徒たちは学んだように感じました。さらに、「北村さんから学んだこと」について、各班で話し合い、自分たちの思いや考えを発表しました。

■子どもたちが学んだこと

たんに「障害」や「障害者」に対する理解だけでなく、これらの学習を通して、人としての生き方にまで、思いをはせる生徒も多く、この学習が価値あるものであったと感じています。「北村さんから学んだこと」について、生

徒たちの発表の中から、いくつか紹介します。

・障害者も、障害者でない人もみんな同じ。弱い立場の人にはやさしくしよう。
・障害をもっている人は、くらいと思っていた。北村さんの話を聞いて、人生は二度しかないから、悔いのないように生きようと思う。

・自分ひとりでは限界があり、人に助けてもらつと、たいへんありがたい。
・障害をつらいと語らず、障害をもつても人生を満足できるように歩んでいこうとされている姿に感動した。

■これから

二学期は「招く」という取り組みでしたが、三学期は五人単位で、福祉作業所や養護学校などを「訪ねる」ことを計画しました。これからも、多くの出会いを通して、さらに実り多い学習ができることを期待しています。



「北村さんから学んだこと」を発表している様子

広島修学旅行

■原爆を知る

附属小学校では、一九八二年から六年生の修学旅行の行き先を広島にしました。当初は、宮島にも行ったり、また自動車工場の見学を加えたりしたこともありましたが、近年は原爆投下の意味とその被害を直接知ることしほった内容になっています。

広島に行くのは六年生だけです、



原爆の子の像を見あげてスケッチする子どもたち

下級生たちに修学旅行の目的を伝え、みんなから折り鶴などをあずかっていく取組みも恒例になっています。

今年も、児童会の組織に対応した形で、それぞれの六年生が下級生に折り鶴づくりをよびかけました。そして、昨年十一月半ばの三日間、広島に行きました。

■子どもたちの決意

原爆の子の像の前でおこなった折り鶴集会で、みんなを代表して児童委員の米田沙穂さんは、つぎのような決意を述べました。

去年の九月十一日に、アメリカで同時多発テロがありました。テレビで、貿易センタービルに飛行機がつかんだ所を見ました。その時、寒けがしました。私のお父さんは消防で働いています。お父さんから、消防の仕事がどれだけ大変か聞き、そして、人の命の大切さを知りました。このことも頭の中に入れて、私は広島に来ました。

私たちは、今日で奈良に帰ります。奈良に帰るからは、クラス委員は担当のクラスのみならず、専門部は専門部の仲間に、広島で学んだことを

ひろめます。自分の目で見たこと、感じたこと、江種さんから聞いたことを、ひろめます。

江種さんは話のなかで、自分の見たことを被爆してから二五年間、だれにも語らなかつたといっていました。私は、その時、国語でやった『川とノリオ』を思い出しました。

ノリオもじいちゃんもだまっていた。江種さんの話を聞いて、私は、戦争や原爆は、人の命をうばい、その人の家族には、悲しみ、怒り、憎しみか生まないと思いました。

江種さんもつらかつたけど、私たち子どもにこのことを引き継ぐために、二五年間の沈黙をやめたんだと思います。

だから、私たちは、奈良に帰って、このことを伝えます。

ほかに、広島で見たものは、折り鶴です。日本だけでなく、世界中から折り鶴が届いています。わたしは、とても勇気づけられました。このことも、全校に伝えます。

同じ児童委員の瀬川悠さんは、「爆風でゆがんだ鉄のとびら、熱線で顔がほとんどなくなってしまうこま犬、



折り鶴集会で決意を述べている子どもたち

これらは、もう何人も人が死に、つらい悲しみしかあとに残さない戦争など、二度としてはならないんだと、私たちによびかけているようでした」といいました。

原爆投下から、すでに五七年間がたちました。過去の悲惨な事実を学び、その背景を知った子どもたちの目は、確かに未来に向いていると感じた三日間でした。

幼稚園

こころもからだもすこやかに

附属幼稚園・養護教諭 山口智佳子

■朝のあいさつから

毎朝正門に立ち健康観察をしなが
ら子どもたちを出迎えています。
「おはようございますー！」と挨拶を
すると、いろんな「おはよう」がか
えってきます。

四月のはじめは、おうちのひとか
ら離れられなくてひたすら泣いてい
る子、「……」言葉を出さなくても笑
顔で手を振る子、「せんせいおはよう
道でね、きれいなお花みつけたの。みて
みて」とお土産をもってくる子、手のひ
らにタッチをしながら「おはよう、せん
せい！」という子、「せんせいおはようご
ざいます。いつてきまーす」と早く幼
稚園で遊びたくて走って通りすぎる子、
「坂道でこけてたあー」と泣きべそをか
いてくる子、「せんせい、〇〇ちゃんも
う来てる？ 今日な、昨日の続きするっ
て約束してん。いつてきまーす」と友だ
ちと遊ぶことを楽しみに登園する子。

四月のドキドキ不安げな「おはよう」
から次第に、声のはりや目の輝きが増
し、いきいきした「おはよう」に変わっ
ていきます。毎朝子どもとかわす「おは
よう」の挨拶からもひとりひとりの成
長がうかがえるのです。



正門前で朝のあいさつの様子

■身体測定

四月の身体測定では、年長組のおに
いちゃん、おねえちゃんが年中組や年少
組にお手伝いにくれています。

年中組や年少組の子どもたちには、
ボタンをはずしたり、とめたり、服を脱
いだり、裏返った服をもどして着たり、
靴下を脱いだりはいたり、まだまだ一人
でするのは難しいのです。

年長組の子どもたちは、はりきって
身体測定のお手本をみせてくれたり、
服の脱ぎ着を手伝ってくれたり、それ
はもう、とてもよくしてくれま
す。一番小さい年少組には「かわいいなあ」
といいながら、いたれりつくせり、真ん



年中組の
4月の身体測定
年長組に着がえを手伝っ
てもらっている様子

中の年中組には自
分でできることは
見守りつつも、ここ
はというところを
手伝ってくれます。
時には「ぼく身
体測定しない！」
と部屋の外へ出てい

てしまう子がいれば、「大丈夫だよ。怖
くないよ。お兄ちゃんお部屋で待つてい
るから帰っておいでね」と優しく声をか
けてくれています。

ごくごく自然な生活の中で、小さな
子に思いやりを持って接するおにいちゃ
ん、おねえちゃん。年上の子どもたちか
ら優しくされるといふ経験。そんな異
年齢の関わりを大切にしています。こ
うした経験の積み重ねによって、心が豊
かにはぐくまれることと願っています。

■自分でできることから

また、子どもたちが生活する中で、
健康について考えられるように機会を
とらえて保健指導をおこなっています。

手作り紙芝居や人形などをつかって、
「手あらいの仕方」「ガラガラがいとブ
クブクが」「トイレのつかい方」「歯を
みがこう」「けがをしたらどうするの」

などの話をします。子どもたちは興味
津々、とても熱心に話を聞いています。
子どもたちは、やってみようと思
うと即実行。「せんせい、みてみて手洗
うのじょうずになったやろ」「すりぎ
ずしたから、洗ってきたよ」と少しづつ
が、自分でできることがふえていきま
す。

保健指導の様子などは、「ほけんだ
より」や保健室前の掲示などで保護者
の方にも伝えるようにしています。子
どもたちの意欲的な姿を保護者の方
にも認めてもらったり、親子で一緒に健
康について考えてもらったりするきつ
けになればと考えています。

これからも、子どもたちの興味・関
心や発見を大切にしながら、生活の中
で必要と思われることを取り上げ、子
どもたちや保護者の方たちに、繰り返し
伝えていきたいと思っています。



年少組にて、保健指導
(手洗いの仕方)の様子